

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(2) 小・中学生			
施策の方向性	<p>小学生は読書のきっかけづくりや読書の習慣の基礎をつくる重要な時期です。中学生になると、感動や共感を得たり、将来に役立つ本等を選んで読んだりするようになる一方で、読む子どもと読まない子どもの二極化が著しくなります。そのため、学齢が上がっても読書に対する興味・関心を持ち続けることができるように、子どもの主体的な活動や子どもたち同士で読書意欲を高め合う取組を行います。</p> <p>また、家庭、地域、図書館、学校等、社会全体で読書活動を広げていくことができるよう、保護者への啓発及び家庭・学校以外の身近な場所でも子どもたちが読書に親しめる取組を行います。</p>			
主な取組	①本の紹介		②読み聞かせ等の推進	
	③読書時間の確保		④読書活動の促進	
	⑤読書目標の設定		⑥調べ学習の促進	
	⑦保護者への啓発			
成果指標			策定時点	目標値(R9)
	1か月の読書率 ・ 小学2年生		94.2%	98.0%
	1か月の読書率 ・ 小学5年生		93.7%	98.0%
1か月の読書率 ・ 中学2年生		70.7%	75.0%	
D 令和6年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R6)	目標値(R6)
評価指標	小学生読書リーダーの養成	年間講座回数	基礎講座2回 交流会1回	基礎講座3回 交流会1回
	図書館利用案内とブックリストの配布	発行ジャンル数	4ジャンル	6ジャンル
	「自由研究ひらめきカード」の発行	発行ジャンル数	21ジャンル	21ジャンル
主な取組の実施状況及び今後の方針	①本の紹介		達成状況	
	<p>◆各学校図書室の司書は、季節や行事、テーマに基づいたおすすめ本コーナーを設置し、掲示物や図書だよりで新刊の紹介を行った。また、委員会活動でのPOP作成など、子どもたちの興味を引く取組を継続して実施した。準備時間やスペースの制約により展示更新の頻度には課題が残るものの、今後もこれらの取組は継続していく。</p> <p>◆まどかぴあ図書館において、幼児から小学生までを対象とするおすすめ本紹介冊子「こばら」を年7回発行し、市内保育所・幼稚園・小学校へ配布した。今年度からは特別号に各小学校学校司書のおすすめ本を掲載するようになり、表紙には迷路などを載せて読書に関心がない子どもでも興味を持てるよう工夫している。今後は、来館が少ない高学年への関心を高める内容を検討していく。また、10代向けのおすすめ本の紹介や、まどかぴあ図書館のイベント情報などを掲載する「わいわいぱら</p>		②期待どおり	

<p>ら」は年4回発行し、特別号では各中学校の司書に加え、筑紫中央高校の司書のおすすめ本も新たに掲載した。今後も中学生の興味を引く選書・テーマ設定で魅力的な紙面づくりに努めていく。</p>	
<p>②読み聞かせ等の推進</p>	<p>達成状況</p>
<p>◆小学校全10校とランドセルクラブ全10箇所は、地域やまどかぴあ図書館のボランティアと連携し、定期的に読み聞かせを実施した。中学校3校ではブックトークも行い、これらの読書支援活動は子どもたちの読書への関心を高めるきっかけとなっていることから、今後は学校の実情に合わせて継続的に取り組んでいく。</p> <p>◆まどかぴあ図書館では、赤ちゃん向け56回、幼児～小学生向け100回のおはなし会を実施し、計2,781人が参加したが、小学生の参加が少なかった。このため、「小学生タイム」の新設など工夫を凝らし、今後も事業を継続していく。</p> <p>◆地域貸出文庫28か所のうち、23か所で読み聞かせを実施した。未実施の地域では読み聞かせ担当者の不足が課題となっており、今後、読書ボランティアネットワークを通じてボランティアの拡充に努めていく。</p>	<p>②期待どおり</p>
<p>③読書時間の確保</p>	<p>達成状況</p>
<p>◆各学校は、読書タイムや図書室利用割の活用などで読書の機会を確保に努めた。しかし、授業増加や教職員の負担軽減に向けた取組の影響から学校での読書時間は減少しつつある。今後は、学校の実情に合わせて読書時間を継続して確保するとともに、「隙間時間」の図書室の利用を促していく。</p> <p>◆読書まつりや通帳の活用、校内放送など多様な方法で図書室利用促進に取り組み、普段利用しない児童生徒にも働きかけを行った。今後も学校の実情に応じた利用促進策を継続して行っていく。</p>	<p>②期待どおり</p>
<p>④読書活動の促進</p>	<p>達成状況</p>
<p>◆夏休み期間中、まどかぴあ図書館と学校図書室の司書の指導のもと、基礎講座や実践活動、交流会を実施し、読書リーダーによる活動を実施した。しかし、司書への負担増が課題となっており、今後は読書リーダーの養成に向けた講座の内容と日程を見直すものの、読み聞かせなど重要な読書活動の質は維持していく。</p> <p>◆赤ちゃんから小学2年生向けまで3種のブックリストと利用案内を配布し、まどかぴあ図書館を利用しない層にも情報を提供した。予算の都合で予定の一部のリストの作成を次年度に持ち越すとともに、未作成の小学3～6年生向けリストを順次作成を進めていく。</p>	<p>②期待どおり</p> <p>※読書リーダー養成の講座回数は減っているが、随時内容を見直しが行われ、読書の推進という当初の目的は果たしていること、予算の範囲内でブックリストの発行はできていることを考慮し、期待どおりとした。</p>

	<p>◆学校において、「読書まつり」や本の紹介カード作成など、児童生徒が本に興味を持つよう創意工夫を凝らした啓発活動を持続的に行った。今後は、学校の実情に合わせ、活動時期を調整しながら取り組みを継続・充実させていく。</p> <p>◆まどかぴあ図書館において、図書館子どもまつり等のイベントを実施し、多くの参加者を得たが、開催時期がゴールデンウィークと重なった影響で、一部のイベントで予約キャンセルや来館者の減少という課題も見られた。今後はより参加しやすいイベントにするため、イベント全体の開催時期を調整し改善を図っていく。</p> <p>◆まどかぴあ図書館において地域貸出文庫への大型絵本貸出やプログラム相談を行うとともに、コミュニティセンターではR6年度から小学生向け読み聞かせ会を4地域で計5回実施した。地域貸出文庫への取組は需要があり、支援にもつながっているため今後も継続するとともに、コミュニティセンターにおいては参加者と満足度の向上に向け内容を検討しながら読み聞かせを継続していく。</p> <p>◆学校において、司書等の支援のもと、図書委員や読書リーダーが主体となり、読み聞かせなどを企画・運営し活動を充実させた。一方で活動時間の確保が難しい学校もあり、今後は学校の実情に合わせた継続を図るとともに、一部の生徒に負担が偏らないように各生徒の役割を明確化していく。</p> <p>◆学校司書により、教職員の依頼に応じた資料準備や児童生徒へのレファレンスを通じて読書を支援した。学校図書室にない資料はまどかぴあ図書館や他校からの貸借で補ったが、複数校で利用時期が重複し、資料が不足することもあったため、今後は市外図書館を含めた連携を検討していく。</p> <p>◆まどかぴあ図書館のヤングアダルトコーナーでは、中学生の興味を引く月替わり特集展示やインスタグラムでの新着本紹介で、読書への興味を持続させる支援を実施した。また、案内POPの設置でPR効果が上がった。今後はコミュニケーションボード設置など、YA世代の利用者と交流を深める企画を進めていく。</p>	
	⑤読書目標の設定	達成状況
	<p>◆読書目標未設定の学校が多かったが、貸出冊数の掲示や「読書貯金通帳」、多読者への表彰などを通じて読書量を可視化し、生徒の読書意欲を向上させる取り組みを実施した。しかし、クラス間に読書量の差が見られたため、今後はこれらの取り組みを継続するとともに、教職員からの積極的な声かけを促すことで、クラス全体の読書意欲向上を目指していく。</p>	②期待どおり
	⑥調べ学習の促進	達成状況
	◆まどかぴあ図書館において遺跡や郷土料理など4種類のテー	②期待どおり

	<p>マを追加し、総数21種類となった自由研究ひらめきカードは、夏休み期間の活用に偏る状況であった。このため、内容の整理を進め、より手に取りやすいテーマを選定するとともに、他の期間での利用を促すため、目立つように掲示方法を工夫していく。</p> <p>◆学校図書室への新聞配架は小学校9校、中学校5校で実施されたが、インターネット普及の影響で利用する児童生徒は少なかった。このため、今後は生徒の興味を引く記事の掲示や図書だよりでの発信を強化する。さらに、新聞を学習資料として活用できるよう、教職員への周知徹底も図っていく。</p> <p>◆まどかぴあ図書館において、学校の貸出傾向を分析し、授業用資料の購入などで学校の調べ学習を支援したものの、同時期の複数校からの依頼により冊数調整が必要となることがあった。今後は、調べ学習に活用できる本を積極的に購入し、学校からの資料貸出要請に対応できる体制を整備していく。</p>	
	⑦保護者への啓発	達成状況
	<p>◆学校図書室において図書館だよりを発行し、児童生徒だけでなく保護者への啓発活動を実施した。しかし、授業参観やPTA活動といった、図書室の活動以外の機会を通じた保護者への働きかけは行えなかった。今後はこの課題を踏まえ、各学校の実情に応じた継続的な啓発活動に取り組んでいく。</p>	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価	◆進捗状況は「達成状況」に記載のとおり。	
検討が 必要な事項	<p>◆カリキュラムを調整し、学校での読書の時間を確保できるよう、可能性を模索してほしい。</p> <p>◆本計画に子どもの読書推進を包含していることで、子どもの読書推進が弱まっていないか検証してほしい。</p>	
A 改善		
改善結果		